



代っ子通信

令和7年5月10日

<第5号>

校長 平塚智康

端午の節句 ~季節感や旬を大事にする~



＜校庭を悠々と泳ぐ鯉のぼり＞



＜鯉のぼりの下で元気に遊ぶ子どもたち＞

端午の節句です。5月1日、運動場の国旗掲揚塔に「鯉のぼり」を掲げました。この日は五月晴れのとてもさわやかなお天気で、4匹の親子の鯉たちは吹き流しと一緒に、すっごく気持ちよさそうに悠々と泳いでいました。

最近は、住宅事情もあり、街中で「鯉のぼり」を見かけることがめっきり少なくなりました。だからこそ、学校に「鯉のぼり」を掲げ、子どもたちに大空を悠々と泳ぐ、本物の「鯉のぼり」を見せてあげたいと思いました。学校に、そして、子どもたちに、「鯉のぼり」は本当に似合います。体育館の屋根より高くのびのびと泳ぐ鯉たちを見ながら、代っ子たちも鯉のぼりのように、たくましく元気に育ってほしいと願います。

日本には美しい四季があり、日本人は古来から季節感や旬を大切にしてきました。四季の移ろいを肌で感じたり、季節感を楽しんだりする営みは、きっと子どもたちの豊かな感性や情操を育むものと私は信じています。学校生活の中にも、季節感や旬を積極的に取り入れ、子どもたちの豊かな感性を育んでいけたらなあと考えています。また、「なんで5月に鯉のぼりを掲げるの?」「なんで柏もちを食べるの?」・・・少し深堀りして、親子で考えたり調べたりしてみると、感性ばかりでなく、探究心や知性まで磨けますよね。

さて、ゴールデンウィークが終わりました。ご家庭でのお子様の様子はいかがでしょうか。新しい学年や学級に順応して、前向きに意欲的に取り組めているでしょうか。それとも、心身ともに疲れた様子が見られるでしょうか。何か気になることなどあれば、いつでも気軽に担任までご相談ください。

学校に掲がっている「鯉のぼり」は、町内の方からお借りしたものです。学校で「鯉のぼり」を掲げたいと、地区会館に相談したら、貸していただける方をすぐに探していました。ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。

藪下 遊 先生(加賀市スクールカウンセラー)の「生き生き子育てコラム」

ドラえもんが教えてくれる学校の役割

新年度に入り、新入生を迎えたというタイミングなので、子どもたちに学校という場がもたらす心理的成長についてお話ししようと思います。

さすがにアニメや漫画、映画を通してドラえもんを見たことがない人はいないでしょう（我が家では、毎年春休みにドラえもんの映画を観に行くことになっています）。このドラえもんを例にお話ししていきます。

ドラえもんのオチは2種類です。

1つは、ドラえもんのひみつ道具を独り占めして好き勝手使うことでひどい目にあうというもの。もう1つは、ひみつ道具をみんなで共有して（現実ではあり得ないほどに）仲良く遊ぶというものです。

ドラえもんのひみつ道具は万能です。ひみつ道具があれば、多くの願望は満たすことができます。ですが、これを好き勝手使うととんでもない目にあい、みんなで仲良く使うと平和な世界になる…そういうストーリーに基本的にドラえもんは作られています。

これらのストーリーには、学童期に子どもが身につけるべきことが暗に含まれています。

アメリカの精神科医であるサリヴァンは、児童期の子どもが身につけるべきものとして「妥協・協調・協力」であると述べています。子どもが自らの自分勝手な欲求のままに好き放題ふるまうのではなく、欲求を抑え（妥協し）、周囲と調和を取りながら協力し合って活動することが学童期に身につけることが大切なのです。

子どもは家庭だけで過ごしていると、どうしても「世界の中心に自分がいる」と感じやすいものです。そして、それは仕方がないこともあります。例えば、子どもがいくら出しても食べない野菜を食卓に並べなくなるように、家庭では自然と「子ども中心の世界」になってしまふ面があるのです。

こうした「世界の中心に自分がいる」という感覚を現実に近い形に修正する場として、学校は存在します。学校という多くの人が一緒に生活する場では、自分の好きにふるまえないことがあるのは当たり前ですが、そういう場に身を置くことで「世界の中心に自分がいる」という感覚に基づく欲求を抑え、周囲に協調し、協力し合うことを経験的に学んでいくわけです。

ドラえもんの「ひみつ道具という万能機を好き勝手に使うとひどい目にあい、仲良く使うと平和になる」という定型は、児童期の子どもたちが学校で経験的に学ぶことをそのまま表していると言えるでしょう。こうした経験を通して、好き勝手にふるまうこととは別の、社会的な成熟に伴う満足感（責任をもって役割を果たすこと、そういう自分を認められる体験、みんなで何かを達成するという経験など）を得ることができるわけですね。

